

(1) 理念・目的・教育目標：●

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	A群：大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性
大学院	A群：大学院研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性 B群：大学院研究科の理念・目的とそれに伴う人材養成等の目的の達成状況

a. 多摩美術大学の理念

1935年の前身校（多摩帝国美術学校）の創立にあたって、その設立趣意書において、「美術は自由なる精神の所産たるを想ふとき、我が美術教育界の缺陷は力説に價するものといふべし。我等同士がこゝに我が美術教育界の缺陷を補填し、我が國美術の振興に寄與せんとする微意に出づ」と壮大な決意を謳いあげている。

美術・デザインの領域における専門教育が官立学校に頼る中、それに匹敵する私立学校を設立し、美術・デザイン領域における専門教育の充実を図ろうとの理念の下に本学は設立された。以来、今日に至るまで美術・デザイン領域における専門職業人、独立した作家の育成を理念としている。

b. 目的・教育目標

イ. 大学の目的・教育目標

学則の第一章（総則）の第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成する」としている。

また、大学院学則の第三条に、「造形芸術全般について高度な学理技能および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」としている。

専門職業人、独立した作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

ロ. 美術学部の目的・教育目標

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会の現実に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人とどまることによっては達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の2つの特徴が挙げられる。

## Ⅱ 一、理念・目的・教育目標

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫かれた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

### ハ．造形表現学部（夜間）の目的・教育目標

美術・デザイン教育を夜間に行うわが国唯一の学部であり、1989年に美術学部二部として開設され、その後1999年4月に発展的改組転換をして現在に至っている。

美術学部と同じく、専門職業人、独立した作家の育成を目的としている。それに加え、造形表現学部は通学至便の地にある夜間学部の特性を活かし、社会人の再教育・生涯教育の機会を提供することを大きな目的としている。

平日（月～金曜日）が午後6時から午後9時10分まで、土曜日は午後2時から午後9時10分までの授業時間で、4年間で卒業できるカリキュラムを組んでいる。また社会人入学試験制度を設け、社会人の再教育・生涯教育の推進にあたっている。

### ニ．大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標

大学院美術研究科博士前期課程（修士）は、美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、1964年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、1998年に芸術学専攻、2002年には工芸専攻を開設して、1研究科5専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。

大学院における社会人の再教育の要請に従い、1995年に昼夜開講制を導入した。

### ホ．大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標

大学院美術研究科博士後期課程（博士）は、社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻1専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

(2) 理念・目的・教育目標等の伝達：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	A群：大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性
大学院	A群：大学院研究科の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

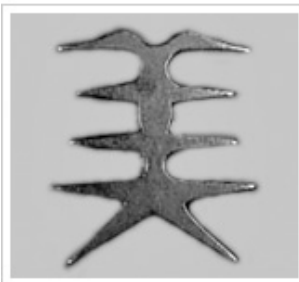
a. これまでの取り組み



創立当時の西洋画棟壁面に取りつけられた紋章レリーフ

理念・目的・教育目標等の伝達については、美術大学の特性を活かし、シンボルマークの制定等により設立当初から取り組んで来た。

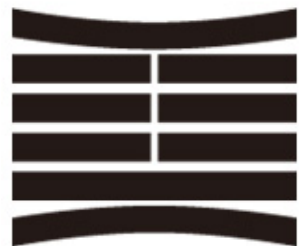
1935年、設立時の校章は、図案科主任教授であった杉浦非水によるデザインである。同年10月末に完成した校舎の門扉は、青・緑・黄・赤のカラーサインが施され、日本画科を青、西洋画科を緑、彫刻科を黄、図案科（染織、建築を含む）を赤に区分されていた。西洋画実習棟の壁面には、建築家今井兼次教授の下絵による紋章のレリーフが取り付けられていた。このレリーフは多摩帝国美術学校の頭文字TTBと絵画芸術のシンボルである絵筆が交差し、上部には「芸術愛」を象徴するアカンサスが戴冠されている。



多摩帝国美術学校校章  
(杉浦非水デザイン)

1953年には、杉浦非水デザインの「美」を基調にした校章が制定され、再建なった新校舎の正門に個性豊かなロゴタイプのレリーフが設置された。

創立60周年の1995年、伝統の継承と新たな目標に向けての創造的な意志を顕在化するUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)計画が実施され、コンセプト、シンボルマーク、ロゴタイプ、スクールカラーを決定した。



現在のシンボルマーク

本学の“自由”な校風と、初代校長である杉浦非水の「圖案生活三十年の回顧」にある“意力”という言葉、専門教育の充実に注いで来た先人の“意志の力”に思いを馳せ、「自由と意力」を新たな理念として打ち建てた。

新たなシンボルマークは、杉浦非水の羊の頭をシンボライズした校章「美」の原型を変容させている。上下二本のラインが「自由」と「意力」で、五十嵐威暢がデザインしたものである。

b. 新しい取り組み

上述したとおり、理念等の周知については設立時より取り組んで来た。しかしながら受験生、在学生はもとより、社会に対して、より具体的な目的・目標を伝える必要があると考えている。

## Ⅱ 一、理念・目的・教育目標

これについては、2006年～2007年に掛け、アドミッション・ポリシー(入学選抜方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程実施方針)、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)の3つの教学運営方針を策定し、ホームページ、大学案内、募集要項、履修案内等で公開している(策定期間により印刷物に掲載されていないものもあるが、ホームページでは全て公開している)。

各ポリシー内容については関連区分により記述をするが、カリキュラム・ポリシーを例に取り周知方法を以下に述べる。

### 教育目標

<b>A</b> 見る事と創る事(1年)	<b>B</b> 表現のための基礎(2年)	<b>C</b> 自己表現の探求(3年)
<b>D</b> 自立への準備(4年)	<b>E</b> 作家としての意識(修士)	<b>F</b> 発表活動、理論の構築(博士)

教養教育 (基礎教育科目)	<b>導入教育</b>	<b>A</b>	美大生としての自覚/基礎力の修得	
	<b>基礎教育</b>	<b>A + B</b>	表現の模索、考え方/コース選択	
	<b>専門教育</b>	<b>A + B + C + D</b>	自立の第一歩/卒業制作	
	<b>高度な教育(大学院)</b>	<b>A + B + C + D + E + F</b>	作家、社会人としての自覚 修了制作・論文発表	

### 教育の特色

#### 教育の領域(油画)

美術作品制作

**導入教育(作家としての基礎を固める)**

- 美術とは何か?また制作についての考え方を学びます。
- 様々な素材を使い、自分にとっての表現を探します。
- 学科受講により知識を深め、制作の内容を豊かにします。
- 表現のための基本を身につける時期と位置づけ、積極的に制作してください。

**基礎教育(コース別指導でより深く)**

- 選択したクラスで、自分が求めている表現を模索します。
- 与えられたテーマにそって制作し、他の学生の作品からも新鮮な発見をします。
- 批評会での発言を積極的に試み、自分の位置を明確にしてゆきます。
- 学内の実習だけではなく、広く外にも目をむけて視野を広げてください。

(抜粋版)

(カリキュラム・ポリシー公開状況)

## Ⅱ－Ⅰ．理念・目的・教育目標

2006年度に各学科等における教育目標をより明確にするため、「教育目標チャート」を作成しホームページ上に掲載した。このチャートは、1年次を「導入教育」、2年次を「基礎教育」、3・4年次を「専門教育」、大学院を「高度な教育」と位置づけて図式化した。

教育の過程ごとにキーワードを示し特色を具体的に説明している。教育課程から何を学び、将来の進路までを分かり易く伝える取り組みである。より正確に教育目標を伝達するために2008年度より学則および大学院学則をホームページに公表する予定である。

また教職員に向けては、学長自らが教職員に対して説明会を開催し、学長としての問題意識を「学長の考え方 2006-2007」として示すなど、目標の共有化を図る取り組みも徐々にではあるが進めている（2006年5月実施）。

### （3）理念・目的等の検証：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	C群：大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する 仕組みの導入状況 ：大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との 関わりの中での見直しの状況

1998年4月、デザインの多様化と社会的要請に応えるため、デザイン科及び建築科の大規模な改組転換を実施した。

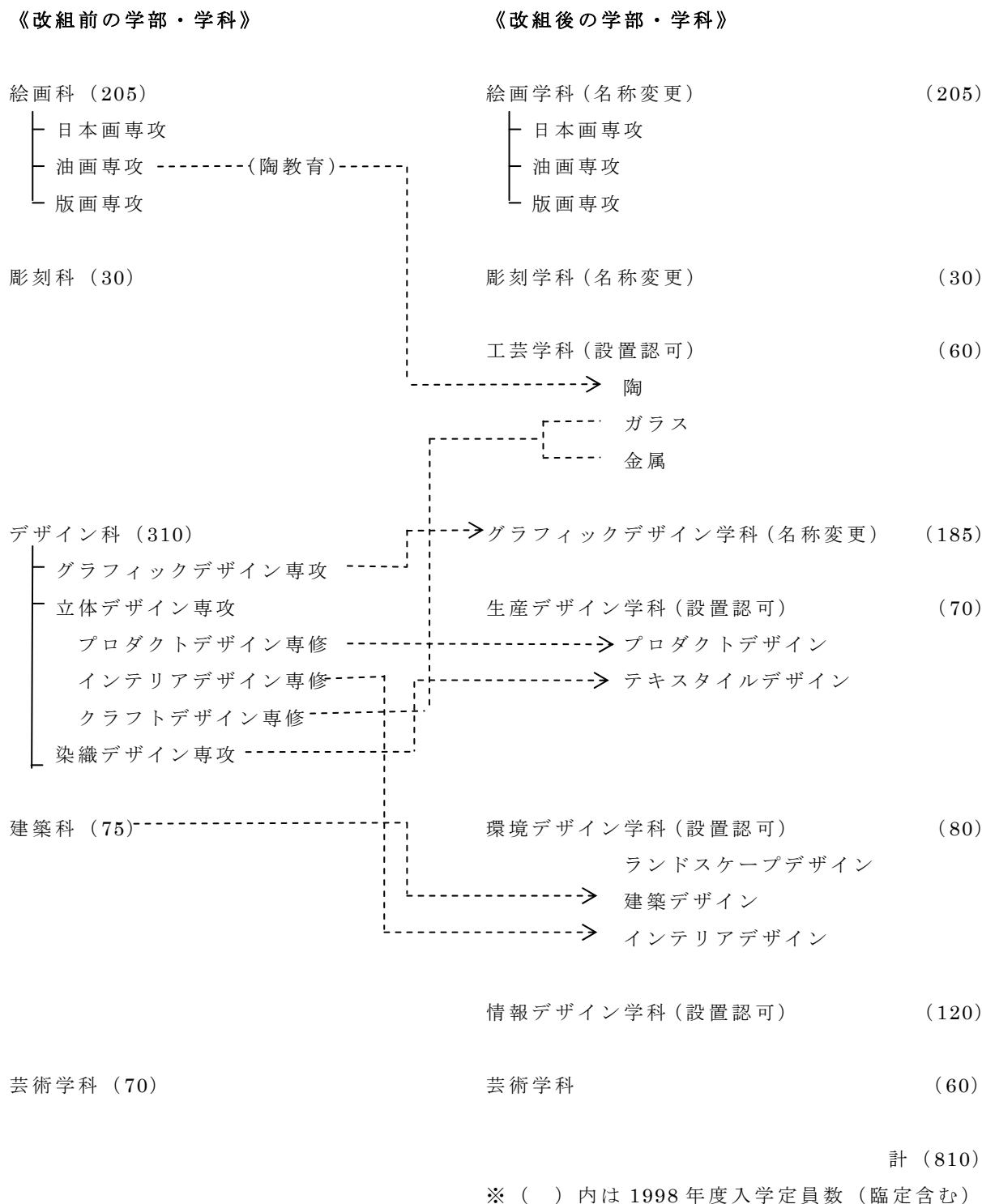
本学におけるデザイン教育は、開学以来、伝統的なデザイン分野の教育研究と、印刷複製技術、大量生産技術、高度情報技術などの先端的な領域との融合を進めて来た。これにより実践教育を展開し、高度な知識と専門技術、創造性を備えた人材の育成に努めて来た。

しかし、近年の産業界におけるデザイン活動の多様化とコンピュータと通信技術の発達により、デザイン領域に包含される活動内容は多岐に亘っている。その多様性に対応するようにデザインの領域も広がったことから、専門領域における教育研究体制の改革と整備充実が必要となった。

デザイン領域における社会的要請に応えるべく、既設デザイン科を基礎とし改組転換を図った。建築科を発展的に廃止し、従来の建築科を基礎とする環境デザイン学科の設置。プロダクトとテキスタイルの統合的な教育展開を行う生産デザイン学科の設置。クラフト分野の教育研究の充実を図る工芸学科の設置を行った。さらに、デザインの諸問題と表現を扱う方法が、情報工学の発展により新たな展開を必要としていることから、情報デザイン学科を設置した。

既設のデザイン科については、伝統的なグラフィックデザインの教育研究を継承し、その目的を明確にするために、グラフィックデザイン学科に名称変更した。

## Ⅱ 一、理念・目的・教育目標



なお、社会からの評価として、リクルート発行の「カレッジマネジメント 141 号」2006 年 11～12 月号の特集記事『ブランド力を高める』が参考になる。この調査は、同社が 2003 年度から開始し今回で 4 回目の実施となるものである。高校生が進学に際して重視する基準や個別の学校に対する捉え方を明らかにすることを目的としている。2006 年 7～8 月に

## Ⅱ―Ⅰ. 理念・目的・教育目標

かけて「募集ブランド力調査」を実施し、関東・関西・東海・北陸地域の約2万7千人の高校生からの回答を得たものである。

「高校生から各大学はどのようなイメージを持たれているか」という大学イメージ上位3校のなかで、多摩美術大学は「自分の興味や可能性を広げてくれる」、「専門分野を深く学べる」という項目で1位（関東地域）にランクされた。また、23項目についての大学イメージランキングでは、「自分の興味や可能性を広げてくれる」、「専門分野を深く学べる」の2項目で1位（関東地域）、「教授・講師陣に魅力的な人がいる」で12位（同）、「学生生活が楽しめる」で15位にランクされ、高く評価されていた。

この結果は、本学が社会の変化や要求に対して常に見直しを行い、教育目標と組織体制の変革を行って来たことが評価されたものと考えている。

## II 一一. 理念・目的・教育目標